

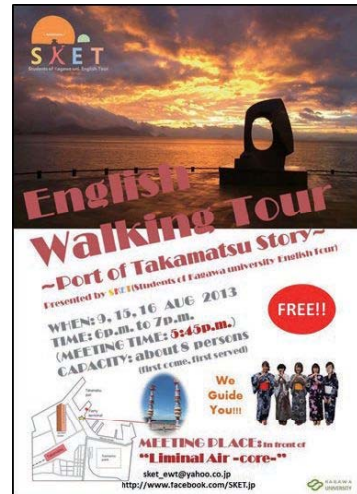
英語ガイドでおもてなしプロジェクト

代表者 大森 綾美 (経済学部地域社会システム学科3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業では、高松の隠れた魅力や歴史を世界に発信すること、外国人旅行客の”言葉の壁”を取り除き、高松でのひと時が最高の思い出となるようにお手伝いすること、そして高松の活性化に貢献することを目的として、高松港周辺において英語のウォーキングツアーを実施しました。

本ツアーは10ヶ所のポイントを約60分で紹介して回るものであり、定員は8名で、参加者にはツアーパンフレットとオリジナル竹うちわを配布しました。宣伝活動は、facebook ページやポスター・チラシ等を用いて行いました。

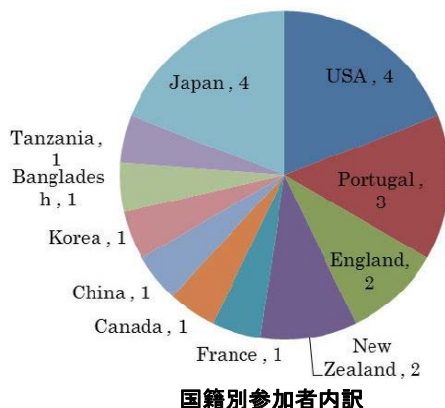


本ツアーのポスター

2. 実施期間 (実施日)

平成25年8月3日 から 平成25年10月7日 まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等



本ツアーは、瀬戸内国際芸術祭の夏会期に4回、秋会期に1回、合計5回実施しました。

日本含め、11ヶ国21名の方に参加していただくことができました。割合からすると、ヨーロッパと北アメリカからの参加者が大半を占めていました。また、男性11

名、女性 10 名と、男女比は半々でした。

初回のツアーでは、予期せぬトラブルが発生するなどしてガイド全員が動揺してしまい、緊張も重なって参加者への気配りにまで頭が回らず、その結果参加者との関係を上手く築けないままツアーが進んでしまいました。また、ツアー時間も予定より大幅にオーバーしてしまったことで、途中で抜けてしまう参加者も数名いました。高松



の魅力を発信することはできても、おもてなしをすることはできず、様々な反省と課題の残るツアーとなってしまいました。

その次のツアーからは反省を活かし、参加者と笑顔で積極的にコミュニケーションを取ることを心掛けました。すると、初回ツアーの重苦しい雰



囲気から一変し、参加者との仲を深めながら和やかな雰囲気ですべてを進めていけるようになりました。また、ガイドたち自身が緊張しなくなり、心からツアーを楽しむことができるようになったことが、参加者に楽しんでもらうことのできるツアーの提供に繋がったのではないかと考えます。

本ツアーの参加者は、facebook ページでの告知を見て参加してくれた高松在住の外国人の方が大半を占めていましたが、現地での声掛け宣伝によって、高松を訪れていた外国人旅行



客の方にも参加してもらうことができました。彼らにとって本ツアーは予期せぬ出来事であったと思いますが、だからこそこの経験は、高松、そして日本の旅行での忘れられない思い出として深く心に刻まれたのではないかと考えます。

ツアー終了後には、多くの参加者からの感想が facebook ページに寄せられました。下記がその一部です。

・ The tour was really fun. Thank you! It was nice to meet you! Hope I see you sometime in Takamatsu again!

(このツアーは本当に楽しかった。ありがとう！あなたたちに会えて良かったです！またいつか高松で会えるのを楽しみにしています！)

・ Thank you for the wonderful visit to your city. It was a great moment on our vacation and we will always remember you. It's a great project and you are fantastic!!...

(高松で素晴らしい案内をしてくれてありがとう。これは私たちの休暇での素晴らしいひと時となり、あなたたちのことは忘れないでしょう。これは素晴らしいプロジェクトです、そしてあなたたちも素晴らしい…！！)

・ Thank you for the great tour! It was fun and I learnt a lot about the port area of Takamatsu. Thank you for making us feel welcome with your positive energy and smiling faces. Hope to meet you all again!

(素晴らしいツアーをありがとう！楽しかったし、高松港について沢山知ることができました。あなたたちの前向きなエネルギーと笑顔で私たちを歓迎してくれてありがとう！また会えるのを楽しみにしています！)

これらの感想より、心の底からツアーを楽しんでくれていた様子が伺え、そして参加者たちにとって満足のいくツアーを実施することができたと考えます。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業が本学に与えた影響としては、今回このように英語を用いて外国の人々に地域の魅力を発信する取り組みを行ったことにより、「地域に根ざし、世界に発信」という理念を掲げる香川大学をより印象づけることができたのではないかと考えます。

また、地域社会等に与えた影響としては、本ツアーに香川県の観光振興課・国際観光グループの方が視察に来て下さったりしたため、香川県の今後のインバウンド事業を考えていく上で、本ツアーが果たした役割は大きかったのではないかと考えます。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回のプロジェクトは、“英語力”や“コミュニケーション能力”、そして“おもてなしの心”など、私たちがこれからの社会で必要とされる能力を養うことができ、とても良い経験となりました。

また、地域の魅力を発信するために様々な魅力を掘り下げていくと、今まで自分たちですら気づいていなかった魅力に出会うこともあり、この活動のおかげで今まで以上に高松のことを好きになりました。そして、もっと高松の良さを多くの人に知ってもらいたいという気持ちが高まりました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

ツアーについての最も大きな反省は、ツアーの宣伝方法についてでした。今回は主に facebook ページとポスターによる宣伝に重きを置いていましたが、facebook ページそのものを外国人旅行客に売り込む手段がなく、高松での旅行を計画する段階でツアーの情報を伝えることができなかつたのが致命的でした。ツアーまでの準備期間が短かったこともあって集客にかなり苦労したため、宣伝については、県の観光振興課等に協力を依頼するべきでした。

また、自分たちの英語力への不安が、ツアーで参加者とコミュニケーションを取る上で障害となってしまったため、余裕を持つためにも事前にもっと英会話の練習をしておくべきでした。

しかし、今回実施したツアーを外国人の人たちに楽しんでもらうことができ、そして高松でのひと時を忘れられない最高の思い出にするという目的を達成できたのは、大きな成果であったと考えます。

今回の活動を通して、地域の魅力を外部の人たちに発信するためには、まず地域の人々がその地域の隠れた魅力に気づくことが最も重要であるということに身に染みて感じました。なので、今後は地域の人たちに魅力を発信し、そしてもっと高松や香川のことを好きになってもらえるような取り組みをしていけたらなと思います。

7. 実施メンバー

代表者 大森 綾美（経済学部 3 年）
構成者 杉山 舞（経済学部 3 年）
武上 実祐（経済学部 2 年）
小林 遼香（教育学部 2 年）
半澤 伊吹（教育学部 2 年）